

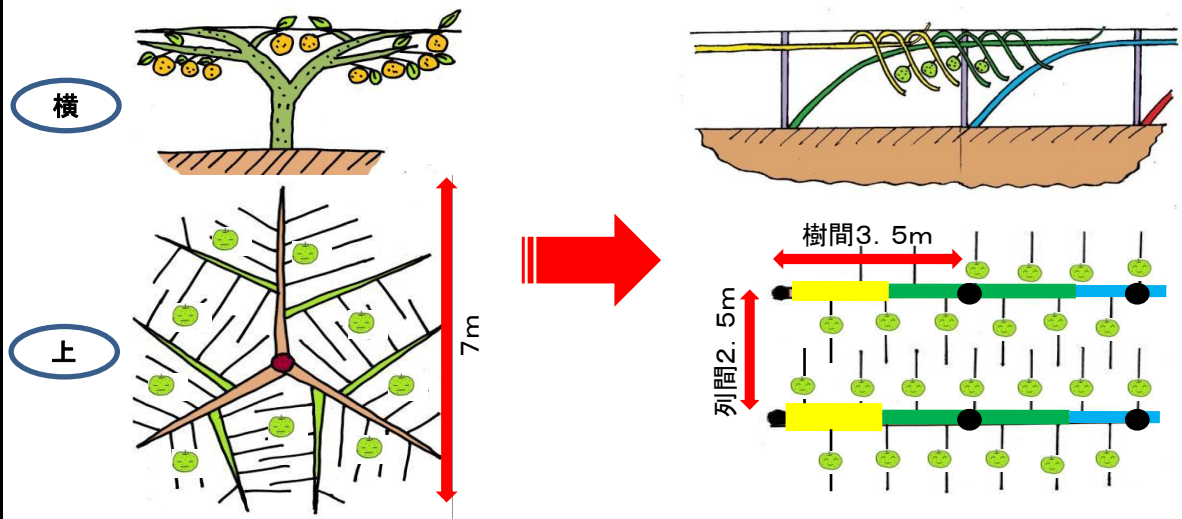
成園まで12年かかったナシ栽培が3年で可能に ～新規・企業参入にも朗報～

【研究のポイント】

県下のナシ産地では10月頃から収穫される晩生品種の「新高」^{にいたか}、「晩三吉」^{おくさん きち}が多く、いずれも植付け50年以上の老木のため生産性が低下しています。また近年、消費者ニーズの変化に伴い新品種の導入が迫られています。しかし、ナシは植え付けて成園(※)まで12年もの年数がかかることから、改植が進んでいません。そこで、今までの栽培方法を見直し、苗木を植え付けて3年で成園になる技術の開発を進めています。

(※)成園とは、目標収量(ナシでは10aあたり4トﾝ程度)に到達した園のことをいいます。

仕立て方の改良



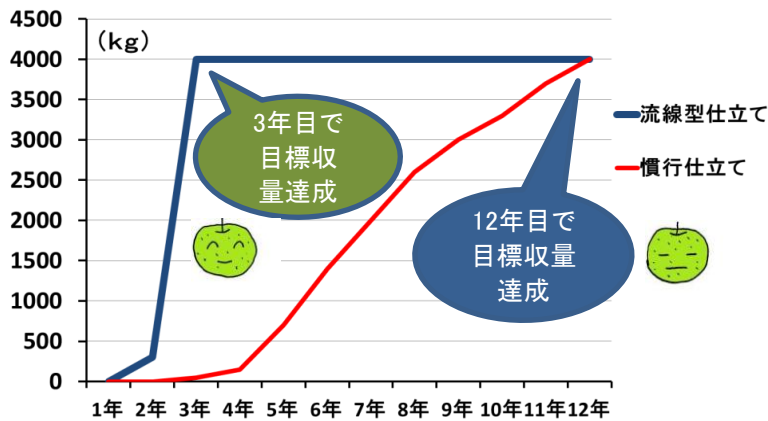
慣行の仕立て

- 果実を採りながら樹を大きくするので、樹冠の拡大が遅く、収量はゆっくりと増え、成園になるのは**12年目**となります。
(10a当たりの植え付け本数:約30本)
- 複雑な樹形のため、剪定は高い技術が必要とします。
- 作業性が悪く、労働時間が多い。

流線型仕立て

- 植え付けから2年間で樹を育て上げるので、**3年目**で目標収量を達成し成園となります。
(10a当たりの植え付け本数:約100本)
- 樹形が単純で初心者でも剪定できます。
- 作業性が良く、労働時間が短縮。

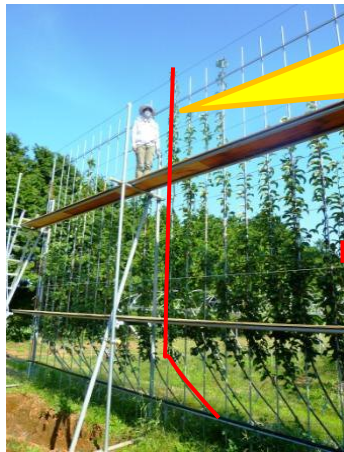
【研究の成果】



植え付けから成園までの10aあたり収量の推移

流線型仕立ての作り方

- ① 全長5mほどの大苗を、専用の施設で大量生産します。



赤線は苗木

- ② 12月に掘上げた大苗を圃場まで運びます。



- ③ この大苗を圃場に3.5m×2.5mの間隔で、横に傾けて植えます。



- ④ 植付け2年間は、さらに側枝と呼ばれる果実を成らせる枝を十分生長させます。3年目に一挙に果実を成らせて収穫します。



【生産者の声】



日田梨生産者 森口嗣男さん

50年生を超える老木が多くなり、この際新品種に更新したいと思っていたとき、普及指導員から改植3年で成園になる「流線型仕立」を紹介され、魅力を感じたので始めました。

まだ他所で実績のない方法だけに何とか成功させたい。

今後は産地全体での改植計画が必要です。現状維持では発展はありません。

【連絡先】

担当: 農林水産研究指導センター 農業研究部 果樹グループ ナシ・ブドウチーム
 TEL : 0978-37-0149 (問い合わせ 担当 福田)
 住所: 大分県宇佐市大字北宇佐65